

お薬の話…5

タバコと薬



全国で約3000万人と言われている愛煙家の皆様、今回、少し耳の痛い話をさせていただきます。タバコは、約200種類以上の有害成分・約50種類以上の発ガン物質を含んでいると言われてます。交通事故で亡くなる死者数が年間約1万人なのに対し、たばこ関連疾患で亡くなる死者数は年間約10万人にのぼると言われ、その上、ガン・肺気腫・心臓血管病（心筋梗塞、狭心症等）・消化器疾患などで治療中の患者様の喫煙率は高く、関連患者数の多さに驚かされます。そのタバコが薬の効果を弱めたり、副作用が出る確率を高くしてしまうことが大いにあり得ることを御存知でしたでしょうか？ そのために病気がひどくなっているかもしれません。たばこをやめることで薬の効果を充分発揮させ、延いては、服用薬の副作用を減らすお手伝いができるよう、今回「タバコと薬」と題しその例をあげ、禁煙補助薬のご紹介をさせていただきます。



- * 糖尿病の注射薬（例：ペンフィル、ヒューマカート、ヒューマリンなど）
タバコで交換神経が興奮し、血糖値が上昇するため、又、血管が収縮されインスリンの吸収が抑制されるため、血糖降下作用が弱くなると言われています。
- * β ブロッカー（狭心症・高血圧のお薬、例：テノーミン、セロケンなど）、
Caブロッカー（狭心症・高血圧のお薬、例：アダラート、ノルバスクなど）
タバコ自体が心拍数・血圧の上昇をきたすため、これらの薬の効果が弱まると言われています。
- * 経口避妊薬（例：アンジュなど）
心筋梗塞・血栓塞栓などの心血管系の副作用が起り易くなると言われています。
- * H2ブロッカー（胃炎・胃潰瘍のお薬、例：ガスター、ゼンタック、プロテカジンなど）
ニコチンには、胃酸分泌促進作用があるため、薬の効果が弱まると言われています。
- * 抗血小板剤（例：パファリン81、パナルジンなど）
喫煙で血小板凝集能が亢進するため、薬の効果が弱まると言われています。
- * 抗凝固薬（例：ワーファリンなど）、気管支拡張剤（例：テオドール、テオロングなど）、
解熱鎮痛薬（例：カロナールなど）、三環系抗鬱薬（例：トフラニールなど）、
精神神経用剤（例：セレネースなど）、ビタミンC製剤
以上の薬剤の代謝速度が早くなり、薬の効果が弱まると言われています。



直接的な影響が判明している薬剤例をあげました。しかし、タバコの薬理作用（血管収縮・血糖上昇・消化器障害など）からみて、影響が考えられる薬剤は数え切れません。薬の効果を最大限に発揮させるため、小さな努力（禁煙）から始めてみませんか？ その手助けとしてニコチン置換療法というものがあります。これは、ニコチンを喫煙以外の方法（禁煙補助薬）で体内に吸収させ、禁煙時の難脱症状を軽減し禁煙を容易にするものです。禁煙補助薬としては、ニコチンを含有するガム製剤（ニコレット）と皮膚に貼る経皮吸収剤（ニコチネルTTS）があります。ガム製剤は、依存の程度が中等度以下の方や禁煙による口寂しさが禁煙の障害となる方に有効です。また、顎関節症や義歯のためにガム製剤が使えない場合には経皮吸収剤を使います。両剤とも医薬品ですが、保険適用はされていません（自費です）。ニコレットの方は、医師の診察を受けなくても一般の薬局・薬店でも購入出来ます。ニコチネルは医師の診察が必要です。詳しくは医師、薬剤師に御相談ください。

（薬局）